

# 第13号議案

社会資本整備総合交付金事業(河川改修)  
たたらがわ  
 一級河川多々良川 邑楽町

着工年度  
 評価理由

平成13年度  
 再評価後5年経過

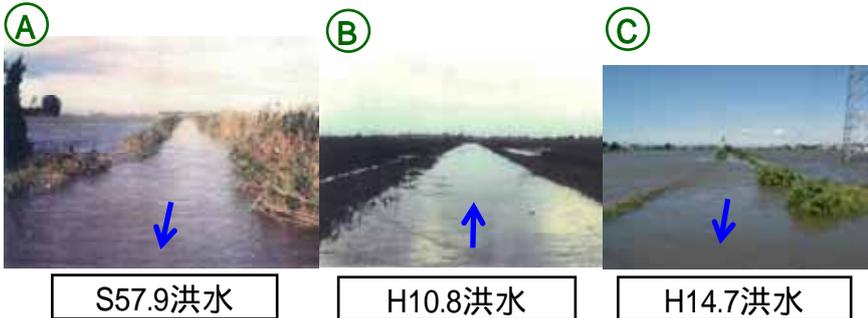
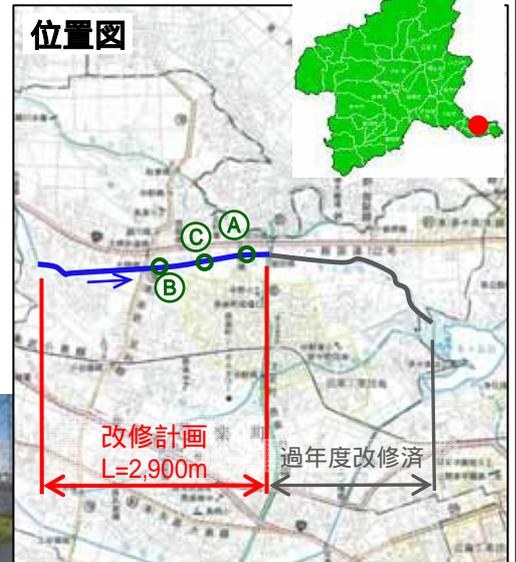
## 1. 事業の目的

一級河川多々良川は、邑楽町内を流れて多々良沼に流入し、更に多々良沼から矢場川に注ぐ河川延長約9.5km、流域面積21.4km<sup>2</sup>の主要河川である。

過去の改修により、(主)足利邑楽行田線の堀田橋下流については流下能力の向上が図られているが、堀田橋を含むこれより上流は、断面狭小で過去に幾度となく沿川地域で浸水被害が発生している。

このため、築堤と河道拡幅により洪水を安全に流下させ、地域一帯の浸水被害及び内水被害の軽減を図ることを目的としている。

位置図



## 2. 事業概要と進捗状況

### 事業概要

事業場所	おうらまちなかの 邑楽町中野 ~ おうらまちしうち 邑楽町石打	
	今回	前回(H17)再評価時
区分	今回	前回(H17)再評価時
全体事業費	1,900百万円	2,100百万円
全体事業費増減の理由	事業計画見直しによる減少	
事業期間	H13~H27	H13~H27
事業内容	河川延長 2,900m 計画規模 1/20 計画流量 2.0m <sup>3</sup> /s (現況流下能力約7m <sup>3</sup> /s)	河川延長 2,900m 計画規模 1/20 計画流量 2.0m <sup>3</sup> /s (現況流下能力約7m <sup>3</sup> /s)

### 事業経緯

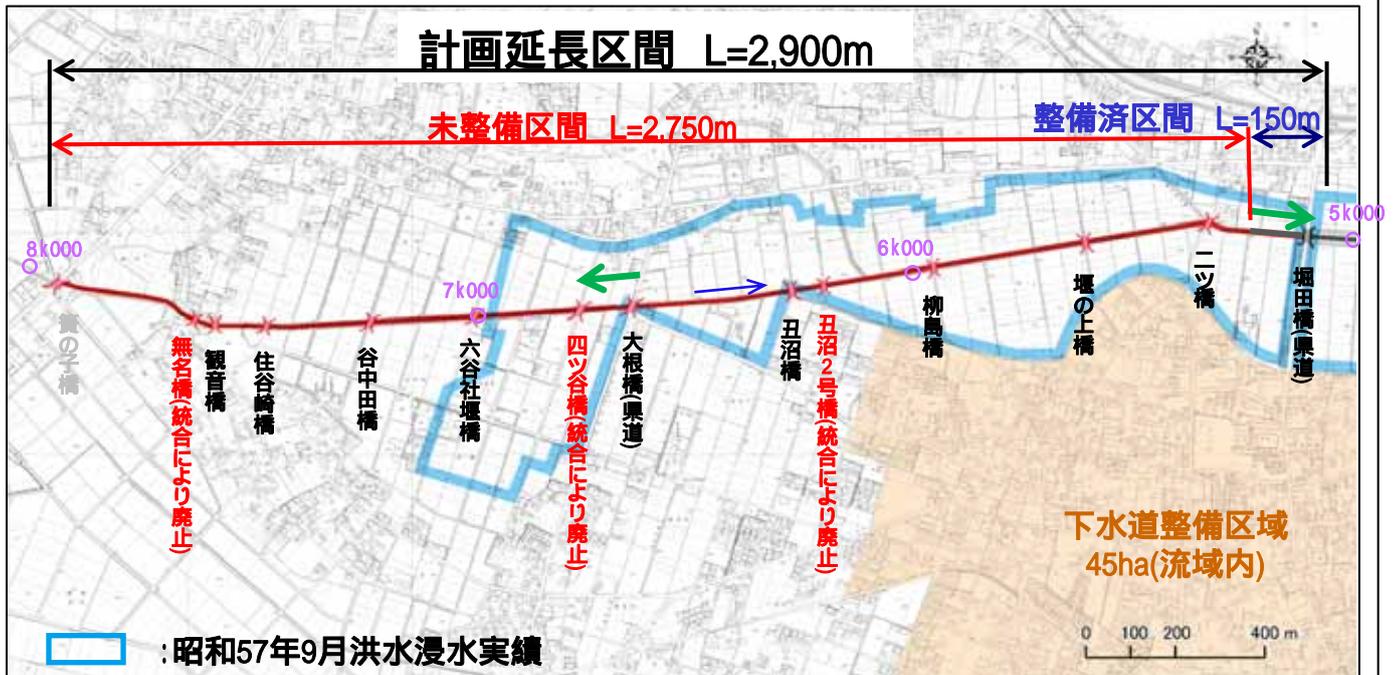
年度	主な経緯
H13	事業着手
H17	用地買収着手
H20	工事着工
H21	堀田橋架替え完了

### 進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	1,900百万円	317百万円 (16.7%)	119百万円 (6.3%)
用地買収	37,200m <sup>2</sup>	8,735m <sup>2</sup> (23.5%)	0m <sup>2</sup> (0.0%)
計画延長	2,900m	150m (5.2%)	0m (0.0%)

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

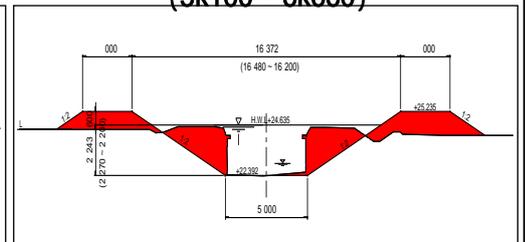
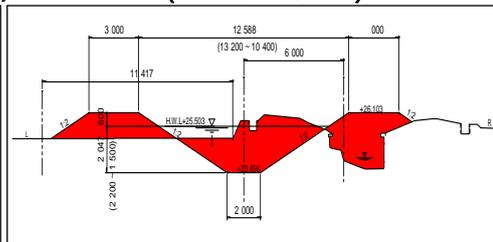
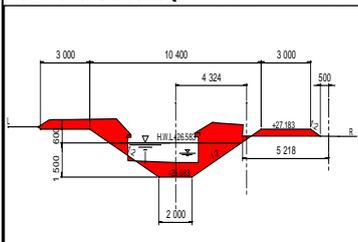
本工事: 築堤、掘削、護岸  
 附帯工事: 道路橋10橋, 水路橋4橋,  
 樋門18基, 堰2基,  
 揚水機場2基, 水路5600m  
 用地買収・物件補償



標準横断面図(7k300 ~ 7k900)

(6k660 ~ 7k300)

(5k100 ~ 6k660)



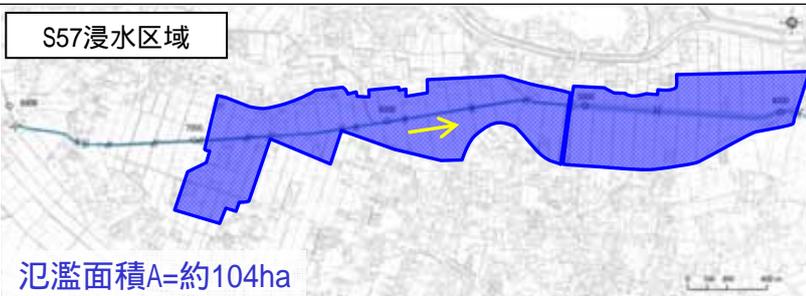
### 【事業の進捗状況】



### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

当該河川流域は、多々良沼の背水の影響や流下能力不足による浸水被害が頻発しており、昭和57年、平成10年、平成14年と大きな被害が発生している。沿川の住宅地や農地のほか、道路冠水による南北の交通障害も生じていることからその影響は大きく、事業の必要性は高い。

今後も溢水による浸水被害が予想されるため、引き続き河道改修を促進させ、治水安全度の向上を高める必要がある。

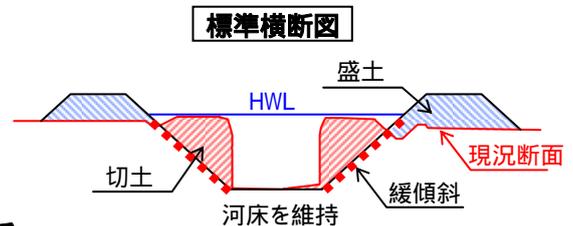


### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

周辺農地の用水利用など土地利用との整合や堤防利用を考慮し、現況の河道法線と河床を維持しながら改修を進める必要があり、河道拡幅による現計画で事業を進める事が最良の方法である。

また、浸水被害の軽減や生息する希少植物の保護対策に取り組むなど、事業実施に対する周辺住民の関心は高く、暮らしに安全・安心と安らぎを与える事業の効果は高い。

現在最下流部から順次工事を進めているが、今後の改修に当たっては自然素材の活用や土羽護岸の採用、橋梁や樋管の統廃合を行うなど計画の見直しによるコスト縮減を図っており、事業効果の早期発現に努めていく。



### 費用便益分析

		前回 ( H 1 7 ) 再 評 価 時		今 回 再 評 価 時		備 考	便 益 説 明
算 出 根 拠 マ ニ ュ ア ル		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月		治水経済調査マニュアル(案) 平成17年4月			
基 準 年		平成17年		平成21年			
区 分	項 目	現 在 価 値	構 成 比	現 在 価 値	構 成 比		
費 用 ( 千 円 )	工 事 費	1,687,570	91.7%	1,690,560	91.3%		
	維 持 管 理 費	152,380	8.3%	161,290	8.7%		
	残 存 価 値	0	0	-	-		
費用合計 ( C ) : + -		1,839,960		1,851,850			
便 益 ( 千 円 )	一般資産被害軽減 便益	1,151,410	36.0%	2,080,720	34.9%	氾濫面積A=52.4ha 浸水家屋N=104戸	
	農作物被害軽減 便益	38,520	1.2%	61,970	1.0%		
	公共土木施設等被 害軽減便益	1,943,580	60.8%	3,512,250	58.8%		
	営業停止被害軽減 便益	57,340	1.8%	230,620	3.9%		
	応急対策費用軽減 便益	7,690	0.2%	44,740	0.8%		
	残存価値	-	-	38,620	0.6%		
便 益 合 計 ( B ) : + ~ +		3,198,540		5,968,910			
費用対効果分析 ( B / C )		1.74		3.22			

## 5. 事業が長期間要している理由は？

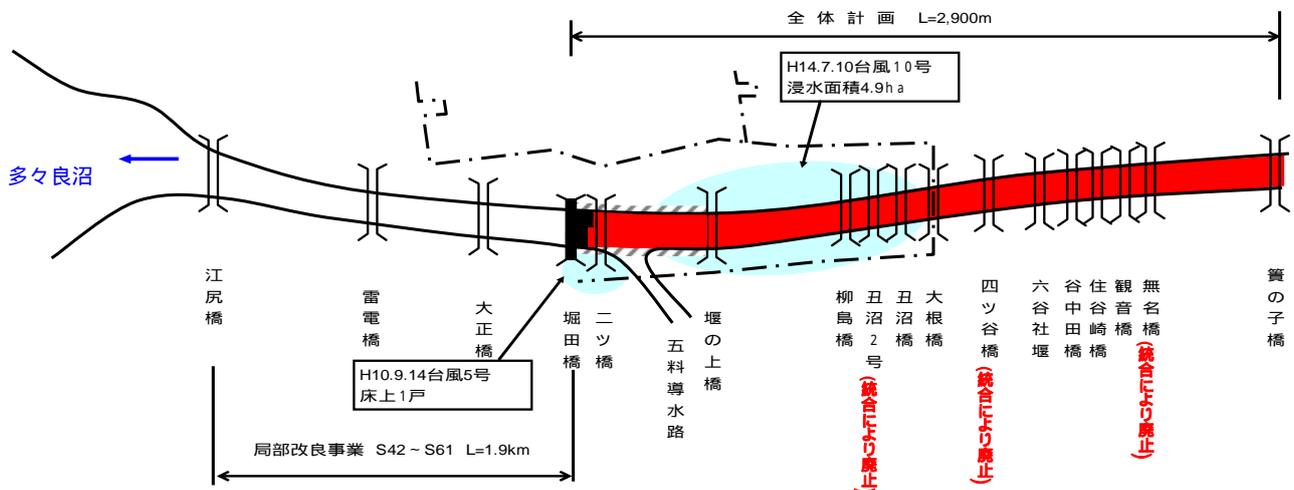
【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

【元々が長期計画】

河川事業では、氾濫の危険箇所を改修して流下能力を上げた場合でも、その下流に新たな氾濫を起こさないようにするため、下流から一定の治水効果を確保していく必要がある。

このため、本河川においては2,900mの河道改修が必要であり、長期計画となっている。



## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし 事業計画の変更 スケジュールの変更

- ・本事業は、河道拡幅による改修によって多々良川沿川の浸水被害を軽減するための事業である。
- ・下流部から順次改修を進めており、現在事業費ベースで約17%の進捗が図られている。
- ・近年でもH10年やH14年に沿川の浸水被害が発生しているため、改修に対する周辺住民の関心も大きく、依然として事業実施の必要性は高い。
- ・現河床に生息する希少植物「コウホネ」の保護対策のため堀田橋の架替えに時間を要したが、移植実験を経て保護対策後は順調に経過しており、現在上流の護岸整備を進めている。
- ・今後の改修にあたり、自然素材の活用や土羽護岸の採用、橋梁や樋管の統廃合を行いながら計画の見直しによるコスト縮減を図っており、平成27年度の完成に向けて事業を進めていきたい。